

## 縄文時代中期の調査

縄文時代の六反田南遺跡には、今から約 5,000 年前（中期前葉～中葉）と、約 4,500 年前（中期中葉末）に集落がつくられていました。土器の型式にすると、前者が新崎式～上山田・天神山式期、後者が古府式期に当たります。

### ●中期前葉～中葉（下層の調査）

今から約 5,000 年前の六反田南遺跡では、蛇紋岩製の磨製石斧製作やヒスイの加工を盛んに行っていました。遺跡から出土するのは、ほとんどが未成品やカス、製作に使用する工具類（敲磨石類・砥石）などです。六反田南遺跡はまさに生産加工工場といったところで、完成品やある程度まで加工したものは別の地へ出荷していたと考えられます。このような遺跡は糸魚川市域をはじめ、隣県の富山県朝日町付近まで見られます。特にヒスイ製の大型大珠や勾玉はいわゆる威信材として、日本全土に流通したことが知られています。これらの一大拠点であったとされるのが、推定数百軒近くの住居をもつ長者ヶ原遺跡で、数万点に及ぶ製作関連遺物が出土しています。これに比べると六反田南遺跡は小規模な遺跡と言え、これまでの調査で住居は 10 軒程度しか見つかっていません。しかし、この集落規模をしのぐのではないかというほどの多量の遺物が、平成 21・23 年度の調査で出土しました。土器や石器、動物骨や植物の種などが捨てられたゴミ捨て場が見つかったのです。もちろん製作関連遺物も多量に捨てられています。動物骨は魚骨片が主で、近海は豊かな漁場であったことをうかがわせます。ゴミ捨て場は海の方（北側）に濃密に広がっており、もしかすると居住域の中心もこの辺りにあるのかもしれませんが、いずれにしても、決して住みやすいとは言えない海岸近くの低い土地にムラを構えた理由は、食料調達に事欠かない豊かな漁場とヒスイが拾える環境が近くにあったから、ということが大きいかもしれません。

### ●中期中葉末（中層の調査）

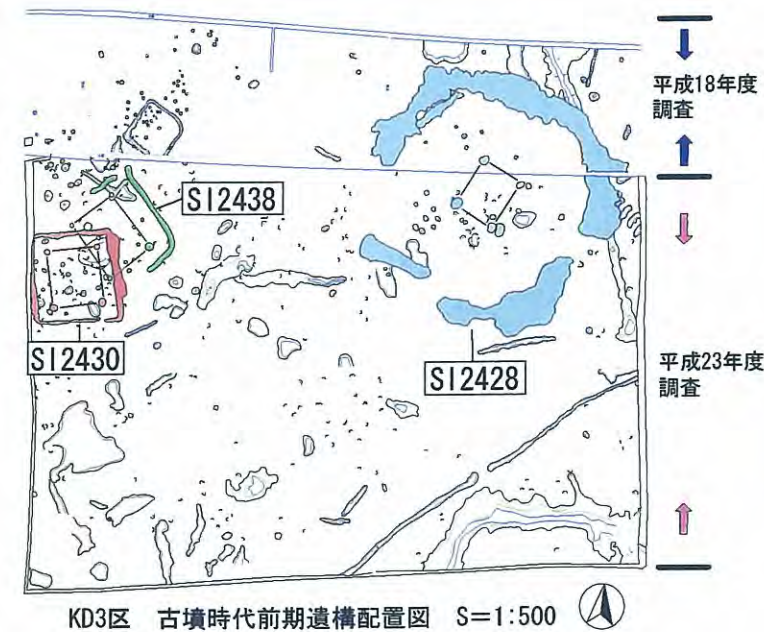
今から約 4,500 年前は、寺地遺跡が盛期を迎える時期に当たります。まだまだ磨製石斧製作やヒスイの加工が盛んな時期ですが、六反田南遺跡では、下層の時期ほど積極的には行わなくなったようです。この時期の竪穴住居には、複式炉という福島県や新潟県に特徴的な炉が出現してきます。六反田南遺跡の炉も複式炉の形態をとるものがありますが、一般的なものと比べるとやや簡易的で独特な様相を呈します。特に炉本体（土器敷き炉や石囲炉）と簡易な石敷きを組み合わせた炉は下層の住居でも見られ、六反田南遺跡に特徴的なスタイルと言えるかもしれません。



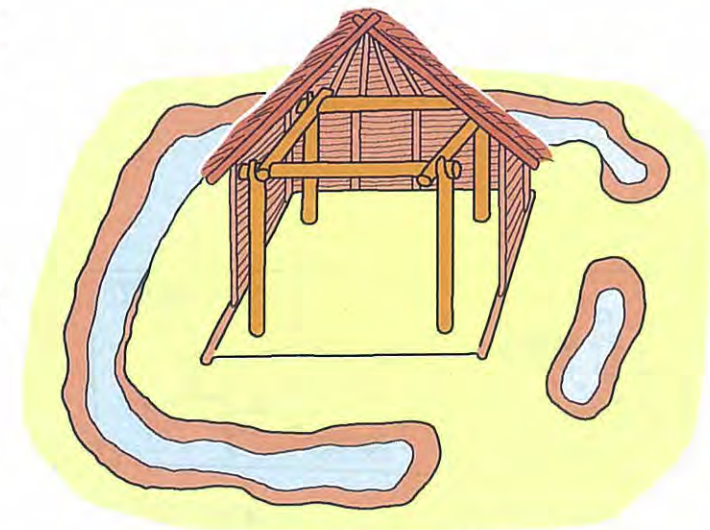
土器敷き炉と石敷きを組み合わせた炉（複式炉）



平成 23 年度の下層遺構配置図 (S=1/800)



KD3区 古墳時代前期遺構配置図 S=1:500



平地建物SI2428復元図（イメージ）

## 古墳時代前期の調査

KD3区では1,130㎡を調査しました。検出した遺構は平地建物3棟、土坑29基、溝24条のほか、川跡があります。

平地建物とは、竪穴建物が地面を掘りくぼめて床面とするのに対し、掘りくぼめずに地面を床面とする建物です。

SI2430とSI2438は、4基の柱穴のまわりに壁溝と考えられる幅の狭い溝が方形にめぐる平地建物です。SI2438の壁溝は南西側半分には存在しておらず、SI2438を解体してからSI2430を築いたとも考えられます。この2棟の平地建物の柱穴には柱は残っていませんでした。またSI2430の西側の壁溝の中からは甕や壺、高杯など復元率の高い土器が多数出土しました。

平地建物SI2428は4基の柱穴のまわりに幅広の浅い溝がめぐっています。柱穴の1基と北側の溝は平成18年度に調査しており、今回の調査で建物の全容が明らかとなりました。柱穴は60～70cmほどの楕円形で、深さは90cmほどあります。4基の柱穴にはすべて柱の根元部分が残っていました。柱の樹種は現在分析中ですが、平成18年に調査したものはスギが使われています。柱は残存している長さが65～85cmですが、南東隅の柱穴の柱だけが1m17cmと残りが良好です。この柱は柱穴の底面から約90cm下まで沈んでいました。

東側の2基の柱穴のすぐ隣にはほぼ同規模の柱穴があり、建て替えが行われたようです。外側の2基の柱穴には柱が残っていないので、外側の柱穴から内側の柱穴に建て替えたと思われます。北東隅の外側の柱穴からは完形の高杯が出土しており、建物を建て替える際に埋められたものかもしれません。

建物をめぐる溝は、建物の東側、南側及び南西隅で途切れています。溝は最大幅2.4mほど、最小幅は1mほどで、あまり一定していません。深さは全体的に20cm前後です。溝の中からはたくさんの土器が出土しましたが、完形のものほとんどなく、小破片が多いのが特徴です。

SI2428のように4基の柱穴のまわりに溝がめぐるタイプの平地建物は、新潟県と北陸地方及び関東地方の平野部において数多く見つかっています。このタイプの平地建物は標高の低い低湿地によく見られることから、溝は除湿のための施設と考えられています。糸魚川市では糸魚川駅近くの姫御前遺跡でこのタイプの平地建物が見つかっています。